

角館高校の教育実践報告

平成18年10月23日～27日の日程で、本校の2年生が広島、京都、奈良方面に修学旅行に行ってきました。今回は行ってきた2年生の感想の中から4点をピックアップしてご紹介いたします。

修学旅行の1日目の朝、自分の家で目覚めたときは、全くこれから修学旅行で広島に行くという実感が湧きませんでした。実感が湧いたのは飛行機が飛び立つ瞬間でした。僕は初めてだったので、緊張して、落ちないかなあと、心配でした。若干酔いながら広島に着いたときは、そんなに遠くへきたという感覚はほとんどなく、そのまま原爆ドームへ行きました。そして原爆ドームを見たとき、教科書でしか見たことのなかったものが今、目の前にあることに感動したとともにここが広島なんだということ、あらためて実感しました。原爆ドームの辺りは緑が生い茂りとてもきれいでしたが、資料館に入ると一気に原爆の悲惨さを目の当たりにしました。資料館の中は爆破当時の遺品や、被爆の惨状を示す写真や資料が展示されていて、核兵器のない平和な世界を実現しようとする人々の願いがあるのだと思いました。(男子)



2日目は最初に厳島神社へ行きました。天気良かったので、鳥居がとてもきれいに見えました。神社の廊下の板は隙間があって潮が満ちてきても良いようにつくられていました。能が演じられるという舞台も、潮の満ち引きで演奏の音に違いが出るということバスガイドさんから聞いて、神社を建てる時に潮の満ち引きまで考えていたのだなと思いました。貴重な世界遺産を見ることが出来て良かったです。(女子)

修学旅行3日目、自主研修。私たちの班は清水寺、地主神社、平安神宮、そして祇園をめぐる予定です。私には最初に訪れた清水寺で確かめたいことが1つありました。それは、「宇治拾遺物語」に登場する検非違使忠明が葎戸(しとみど)を小脇にはさんだままいったいどのくらいの高さから飛び降りたのかということです。その話の中で、彼は無事、谷底へ辿り着いて逃げ延びることが出来たわけですが、私が実際にお堂から谷を見下ろしたときはあまりの高さに驚き、忠明の勇氣に敬服してしまいました。この体験を通して、相当な覚悟がない限り、安易に「清水の舞台から飛び降りる」ということわざを使ってはいけないんだと考えるようになりました。



また、有名な音羽の滝の三筋には、身体が健康になるとき、性格が良くなるとか、頭が良くなるとか、縁結びの願いを叶えてくれるなど様々な説がありますが、実はこれらは観光用に設けられたものだとされています。効能が書かれた看板や札がないのはそのためです。私もこのことを後になって知ったのですが、この滝が「仏・法・僧への帰依」や「行動・言葉・心の三業の清浄」をあらわすといわれていて、滝自体が神聖な信仰の対象となっていたからこそ「音羽の滝の水を飲むと頭が良くなる」などの説が生まれたのだと思います。(女子)

4日目は朝からバスに揺られて奈良公園へ。奈良公園で鹿と楽しくたわむれてみんな楽しそうでした。次に南大門を通り東大寺に向かいました。南大門には金剛力士像が2体あり、1つは阿形(あぎょう)、もう一つは吽形(うんぎょう)、2つ合わせて阿吽の呼吸です。この2体の像は69日間という短い期間でできあがったそうです。この像を実際に目で見て、すごく迫力がありました。もちろん大仏様の迫力も圧倒的でした。大仏は14.98mあるそうです。今から千年以上も前なのにあんなに大きなものを造れるなんて昔の人はすごいなあと思いました。(女子)

